

## 資料2

その他説明資料

## 目 次

1	国際競争力の強化に向けた取組について	1	頁
2	名古屋港の防災対策について	4	
3	親しまれる港づくり等について	6	

## 国際競争力の強化に向けた取組について

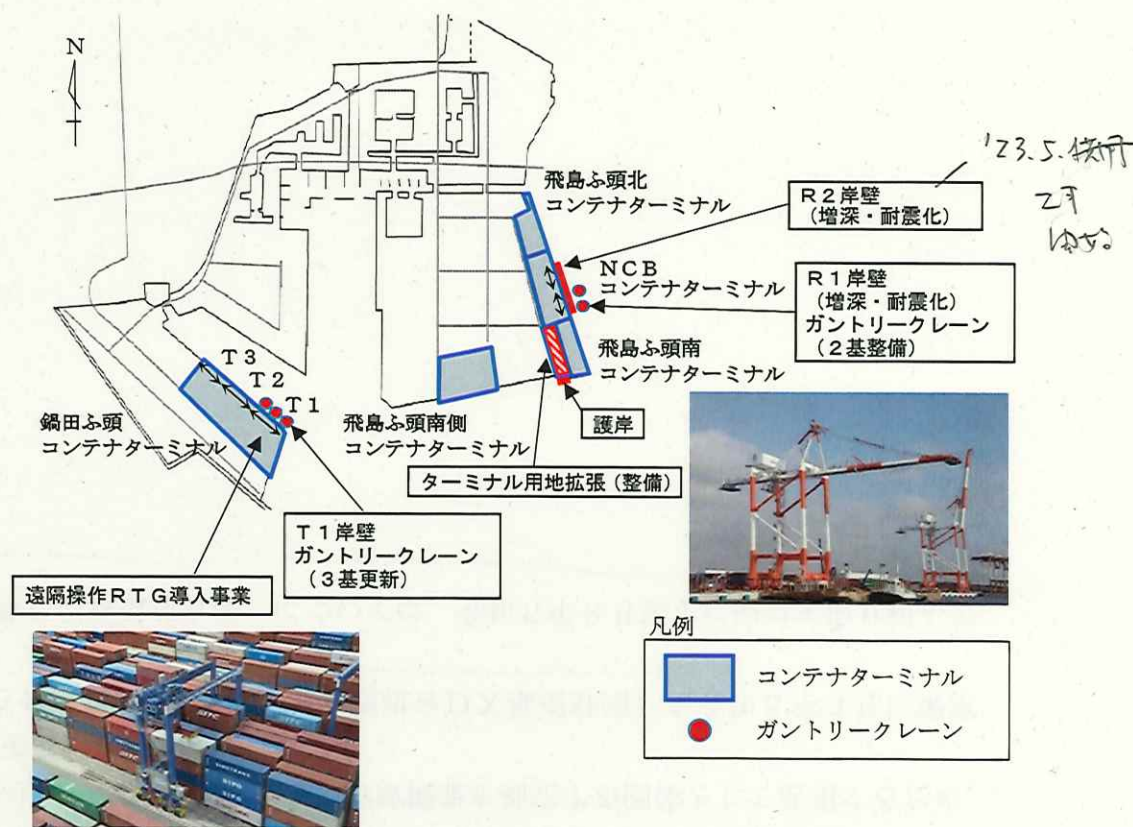
名古屋港は、コンテナ貨物、バルク貨物（ばら積み貨物）、完成自動車を取り扱う総合的な港湾であり、背後地域の「ものづくり産業」を強力に支援する「国際産業戦略港湾」の実現に向けた取組を進めている。

### 1 コンテナ取扱機能の強化

飛島ふ頭NCBコンテナターミナルにおいて、船舶の大型化等に対応するため、国は、岸壁の増深（水深12m→15m）及び耐震化に取り組んでおり、そのうちR1岸壁の改良工事が完了し、名古屋四日市国際港湾株式会社（以下「名四（株）」という。）が大型ガントリークレーン（22列対応）2基を設置して、令和4年10月1日に供用を開始した。R2岸壁については、令和5年5月に国が工事着手を予定しており、引き続き、早期完成に向けて取り組んでいく。

飛島ふ頭南コンテナターミナルにおいては、コンテナ取扱機能の更なる強化に向け、ターミナル用地拡張のため、護岸の整備や地盤改良工事を進めていく。

鍋田ふ頭コンテナターミナルにおいては、ターミナル運営者である名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社（NUCT）により、遠隔操作RTG導入事業（40基、うち新規32基、改造8基）が行われており、令和4年4月にT3（10基）で運用が開始され、引き続き、T2、T1への導入に向けて準備が進められている。また、T1岸壁に設置されているガントリークレーン3基について、供用から25年が経過し更新時期を迎えていることから、名四（株）が更新を進めていく。



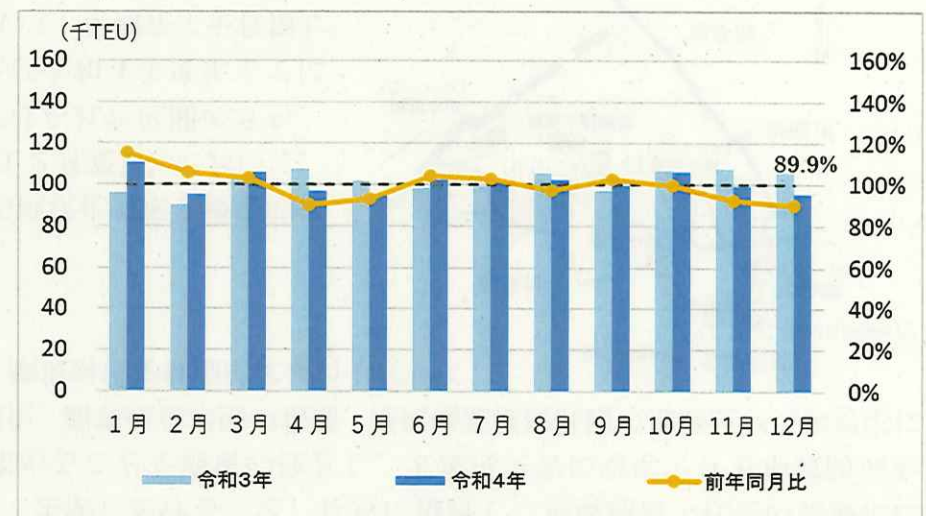
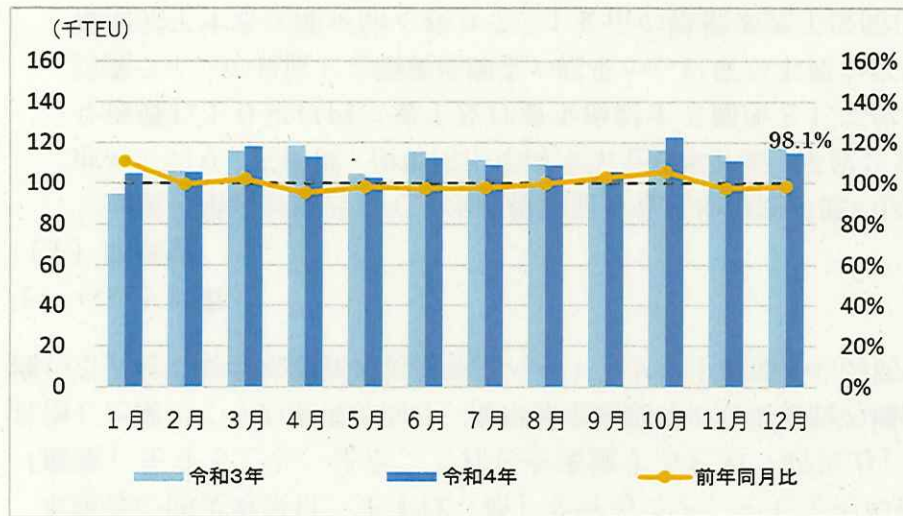
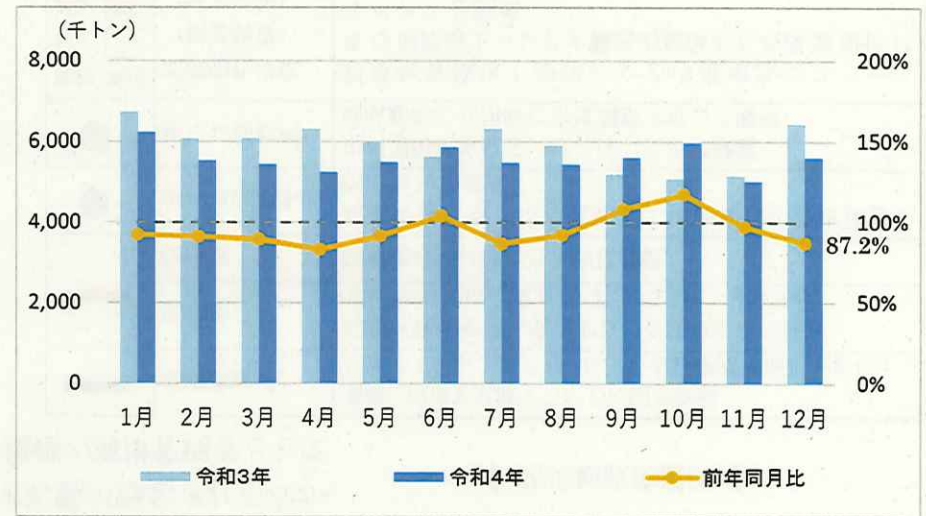
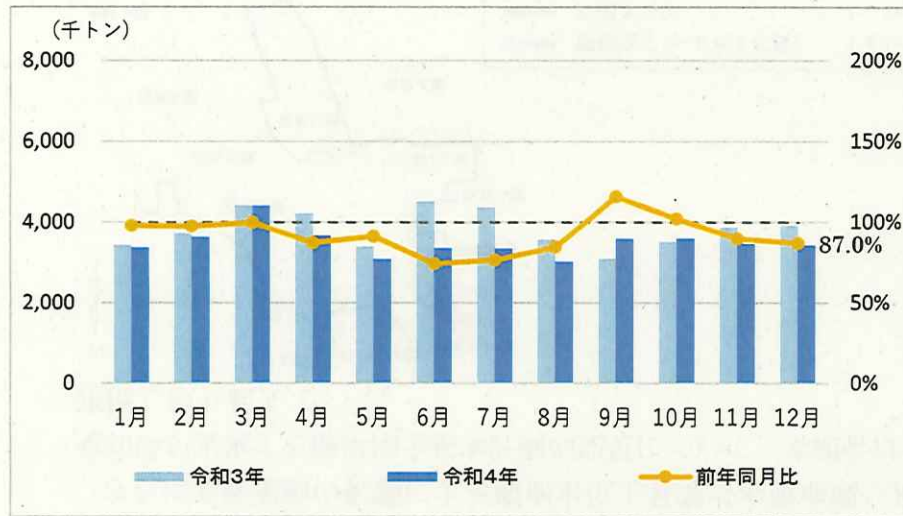
## 2 港湾の管理運営の効率化

コンテナ物流の環境変化や新たなニーズに迅速かつ柔軟に対応するため、令和4年4月より名四（株）の企画、集貨部門を機能強化し、コンテナターミナルのAIを活用した生産性向上や脱炭素化に向けた検討などを進めており、引き続き、更なる効率的なターミナル運営に向けて検討を進めていく。併せて、名古屋港埠頭株式会社については、本組合の行政機能を補完する団体として活用するため、まずは、令和5年4月に港湾施設等の点検・維持修繕業務等を委託していく。

また、名古屋港及び本組合行政のデジタル化の取組を加速させるため、「名古屋港管理組合DX推進計画」を令和5年3月に策定する。（「参考1」参照）

なお、港湾の管理運営の効率化などを取組内容とする「第6次行財政改革計画」については、令和5年8月策定に向けて取り組んでいく。（「参考2」参照）

【 参 考 】 最近の貨物動向（令和4年）



出典：名古屋港港湾統計

### 名古屋港の防災対策について

本組合の防災対策は、まずは「命」を守ること、そしてその後の「生活」を守ること、さらに継続した地域経済・社会の発展には「産業」を守ること、また、これらを実施するため「防災力」を高めることを施策の柱とし、大規模災害に対応できる地域防災を目指した港づくりの実現に向け、海岸保全施設等の防災施設の機能強化、耐震強化岸壁の整備、港湾機能継続計画の推進及び災害対応に携わる人材に対する訓練の実施等、ハード・ソフト両面からの防災・減災対策を計画的に遂行していく。

#### 1 ハード対策

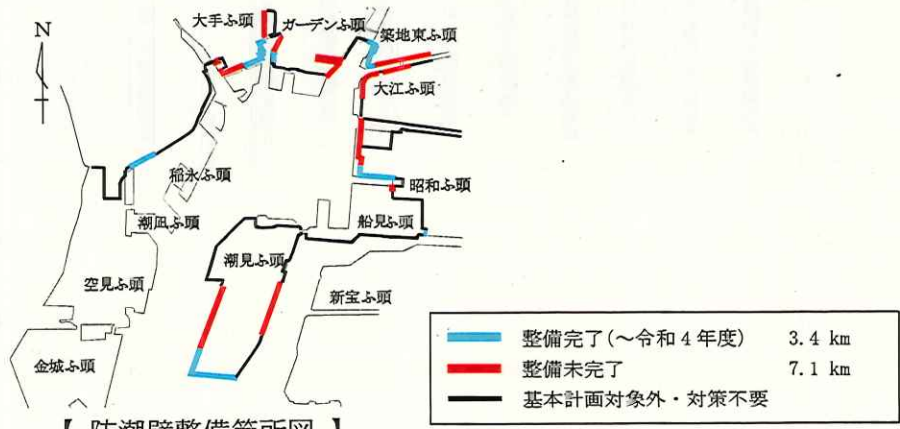
##### (1) 防潮壁

地震・津波対策として、水際線に面し背後地盤高が低い区間の液状化対策を優先的に進めており、三河湾・伊勢湾沿岸海岸保全基本計画（平成27年12月変更）において、今後概ね10年以内に着手及び着手検討する箇所として位置付けられた区間のうち、防護ラインの見直しと耐震性調査の結果から対策が不要な区間及び令和4年度末までに整備完了する区間を除く残り7.1kmの整備未完了区間について、早期完了を目指し整備に取り組んでいく。このうち、1.5kmは現地工事に着手、3.1kmは調査・設計を行っており、設計を終えた区間を加えながら、引き続き、工事進捗を図っていく。

さらに気候変動の影響による海面水位上昇等が沿岸地域へ及ぼす影響が懸念されるなか、愛知県が実施する海岸保全基本計画の変更について、本組合は名古屋港の海岸管理者として連携し取り組んでいく。



【 防災施設位置図 】



【 防潮壁整備箇所図 】

	高潮防波堤	高潮、波浪を低減するために国が整備 全長7.6km、高さN.P.(名古屋港基準面)+8.0m
	防潮壁	高潮が背後地域へ浸入するのを防ぐための施設 全長26.4km、高さN.P.+6.0m、+6.5m
	防潮扉	防潮壁の開口部3か所に設置
	堀川口防潮水門	高潮時等に海と川を遮断して市街地への浸水被害を防ぐために設置
	中川口通船門	中川運河の水位を一定に保つために設置 通航船舶の利用時に水位調整を行って開閉
	既設 新規 耐震強化岸壁 (緊急物資) (コンテナ)	緊急物資輸送の確保のため内港地区に3バース及び国際海上コンテナ輸送の確保のため西部地区に5バースを整備
	海岸堤防	愛知県が管理する堤防

## (2) 耐震強化岸壁

緊急物資輸送対応の耐震強化岸壁については、金城ふ頭において令和4年度末に港内4バース目となる新たな岸壁が概成する。

コンテナなどの幹線貨物輸送対応の耐震強化岸壁については、飛島ふ頭のNCBコンテナターミナルにおいて耐震化に取り組んでおり、そのうちR1岸壁については令和4年10月1日に港内5バース目となる耐震強化岸壁として供用開始した。R2岸壁については、令和5年5月に工事着手を予定しており、引き続き、早期完成に向け取り組んでいく。

## 2 ソフト対策

### (1) 港湾機能継続計画（港湾BCP）

大規模災害時における緊急物資等の輸送ルート確保や港湾機能の早期回復を図るため、「名古屋港BCP協議会」（令和5年2月開催）及び「伊勢湾BCP協議会作業部会」（令和5年1月開催）において、大規模地震を想定した応急復旧に関する訓練を実施するとともに、行動計画の見直しを行った。引き続き、協議会構成員と連携し、実効性の向上に取り組んでいく。

### (2) 被災情報の収集と共有

災害時の被災状況調査において、安全かつ迅速にリアルタイム映像を収集するため、令和5年2月に高性能ドローンや港内カメラを導入した。

また、収集した映像について、国、愛知県及び名古屋市を始めとする所在市村と円滑に共有するための伝達方法や具体的な活用に向けて、各防災部局とともに検討を進めており、港内カメラによるリアルタイム映像の提供を試行的に実施した。

引き続き、速やかな被災状況の把握や関係機関との情報共有による迅速な災害対応の実施に向けて取り組んでいく。

### (3) 各種訓練の実施、関係機関との連携

南海トラフ地震の発生による地震・津波災害を想定した防災訓練については、感染症対策に配慮しつつ、本組合の防災訓練（令和4年9月実施）や金城ふ頭で働く人々などの確実な避難行動につなげることを目的とした金城ふ頭津波避難訓練（令和5年1月実施）等各種防災訓練を実施した。（令和4年度各種防災訓練17回実施）

また、「名古屋港所在市村防災連携会議」（令和5年2月開催）において、関係機関と防災に関する意見交換を行った。引き続き、関係機関と連携し、防災力の強化に取り組んでいく。

## 親しまれる港づくり等について

### 1 名古屋港水族館

#### (1) 入館者数（令和5年2月末日現在）

期 間	令和元年度	令和2年度（※）	令和3年度	令和4年度
4月～2月	199.9万人	81.1万人	118.9万人	184.0万人

※令和2年4月1日～5月24日 臨時休館

#### (2) 主な取組

- ・開館30周年を記念した「名古屋港水族館写真集」を近隣の大学と連携して制作し、名古屋市立の図書館及び隣接市村の小中学校に寄贈するとともに、令和5年2月10日から水族館内のミュージアムショップにて販売している。
- ・老朽化した施設の長寿命化や集客力の向上を図るため、利用者にも配慮した改修を見据えた中長期的な計画（事業運営計画）の策定に取り組んでおり、令和5年度は有識者からの助言を得ながら取りまとめていく。
- ・シャチ「ステラ」の飼育業務委託は、契約期間（令和4年4月1日～令和5年3月31日）が満了するが、相手方の株式会社グランビスタホテル&リゾートから1年間の延長要請があったため、契約期間を延長する。



【 名古屋港水族館写真集 】



【 シャチ ステラ 】



## 2 クルーズ船

クルーズ船の受入れについて、国内クルーズ船は、名古屋港のマニュアルにより感染症対策を徹底し、令和2年11月より受入れを進めている。外航クルーズ船は、令和2年から寄港はないものの、同マニュアルを外航クルーズ船に対応したものに改訂し、令和5年3月当初より受入れを再開した。

クルーズ船誘致の取組については、名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議（事務局：本組合及び名古屋商工会議所）を開催し、同会議を通じ関係団体と連携を図りながら、外国船社への対面セールスを再開し、観光施設等を紹介しながら誘致を進めるとともに、歓送迎行事や観光案内等のおもてなし事業を実施している。

また、ガーデンふ頭において老朽化した3号岸壁の改良を進めており、工程調整をしながらクルーズ船の受入れを行っている。

### 【クルーズ船入港状況】

令和5年2月末日現在

ふ頭別	令和元年 実績	令和2年 実績	令和3年 実績	令和4年 実績	令和5年	
					実績 (1～2月)	申込隻数 (3～12月)
ガーデンふ頭	33隻(6隻)	7隻(0隻)	14隻(0隻)	22隻(0隻)	0隻(0隻)	14隻(9隻)
金城ふ頭	6隻(5隻)	0隻(0隻)	0隻(0隻)	0隻(0隻)	0隻(0隻)	1隻(0隻)
計	39隻(11隻)	7隻(0隻)	14隻(0隻)	22隻(0隻)	0隻(0隻)	15隻(9隻)

※（ ）内は外航クルーズ船の隻数

## 3 名古屋船員会館（ハーバーロッジなごや）

名古屋船員会館は、昭和42年に主に船員の宿泊施設として、港湾法に基づき本組合が設置し、現在は、(公財)名古屋みなと振興財団が運営している。

しかし、船員の利用が長年低迷するなか、コロナ禍で令和2年度より3年連続の赤字となる見込みであり、また、築55年以上が経過し老朽化による維持費の増大も見込まれることから、運営を継続することは厳しいと判断し、令和5年度末までに閉館することとした。

今後は、船員宿泊の代替措置や跡地利用などの諸課題に取り組んでいく。



【名古屋船員会館（ハーバーロッジなごや）】

#### 4 ガーデンふ頭再開発

ガーデンふ頭では、更なるにぎわいや新たな魅力の創出に向けて策定した「ガーデンふ頭再開発基本計画」（平成29年9月）に基づき、再開発に取り組んでいる。

こうしたなか、行政と民間事業者が協働で取り組む官民連携事例を参考に、計画立案段階から開発主体の誘致までを民間と協働で行う仕組みについて、有識者会議を4回開催し、助言を得ながら検討を進めてきた。

令和5年度は、公募により本組合と再開発に取り組む事業者を選定し、具体的な再開発計画の立案等を協働で行っていく予定である。



【 ガーデンふ頭 】

#### 5 中川運河の再生

本組合は、中川運河の再生に向け、「にぎわいゾーン」を中心に様々な施策を実施している。

北幹線・北支線では、バーミキュラビレッジ前面のプロムナード整備を令和5年度の完了を目途に進めている。また、堀止緑地と広見憩いの杜を結ぶプロムナードについては、令和5年度の事業着手を予定している。

東支線では、運河の水質改善を図るため、水循環を促進する松重ポンプ所の改修及び底層改善のための覆砂を令和5年度完了を目途に進めている。また、運河を眺望できる視点場の整備を令和3年度より順次進めている。

昭和橋地区で公募したにぎわい施設については、事業予定者である山和製麺株式会社と、本契約の締結に向けて手続を進めており、引き続き、新たな沿岸用地でのにぎわいづくりに向けて検討を進めていく。

「中川運河再生計画」（平成24年10月策定、計画期間20年間）は、策定から10年が経過したことから、運河を取り巻く情勢やこれまでの取組の点検・検証結果を踏まえた今後10年の取組を、名古屋市とともに検討を進めており、令和5年度に更新する予定である。

今後も、魅力ある中川運河への再生に向け、関係者とともに取り組んでいく。



## 6 第5次名古屋港管理組合地球温暖化対策実行計画

本組合は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、所有する施設・設備における事務・事業から排出される温室効果ガス削減のための目標や取組などを記載した「第5次名古屋港管理組合地球温暖化対策実行計画」を策定する。

同計画では、2030年度までに、2013年度（基準年度）比で50%の温室効果ガスの排出削減を目指し、「公用車の段階的な電動化の推進」、「再生可能エネルギー活用の推進」、「照明設備のLED化の推進」などに取り組んでいく。（「参考3」参照）

